

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	森田 千尋	学校名	北九州市 ひびきの学校
教科（科目）・領域	総合的な学習の時間	対象学年（人数）	4年 6組（35名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2021年11月～12月（8時間）		

【実施概要】

1. 単元名(活動名)：世界のごみ問題～自分にできること～					
2. 実践する教科・領域： 総合的な学習の時間	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	Bグローバル社会	相互依存	情報化		
	C地球的課題	人権	環境	平和	開発
D未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： 身近なプラスチックごみが世界の環境を脅かしていることに気づき、世界のプラスチックごみの問題を調べる活動を通して、自分たちの生活と深いかわりがあること理解し、ジブンゴトとして捉え自らの生活や行動に生かすことができるようにする。					
5. 単元の 評価規準	① 知識及び技能	給食に出る牛乳のストローが来年に廃止になること理由について理解し、プラスチックが自分たちの生活と深い関わりがあることや、プラスチックを減らすために様々な取り組みが行われており、そのために活動したり努力したりしている人がいることを理解している。			
	② 思考力、判断力、表現力等	身近なプラスチックごみの問題に関心を持ち、プラスチックごみの問題を自分の問題として捉え、必要な情報を集めたり、選んだりして課題解決に取り組むとともに、調べたことを分かりやすくまとめたり、相手に関心をもってもらえるように工夫して伝えたりしている。			
	③ 学びに向かう力	友達や家族と協力して課題解決や実践に取り組むとともに、プラスチックごみを減らすために、自分ができることに取り組むことを通して、自分と身近なプラスチックごみ問題との関りを見直そうとしている。			
6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由あるいは単元の意義】</p> <p>1学期に、4年生の社会科の学習において、ごみ題材として、自分たちの生活と環境の関わりについて学んできた。ごみは分別して捨てなければならないことや、ごみの処理方法は理解しているものの、実生活での児童は、物を簡単になくしたり、すぐに新しい鉛筆や消しゴムを買ったりと、物に対して「もったいない」という意識が薄く、欲しいものが簡単に手に入る環境にいる児童が多い。そのため、環境問題を自分の生活と関連付けて考えたり、環境問題解決のためという実感を持って、エコ活動に取り組んでいるとは言い難い。そこで、来年度、北九州市が牛乳のストローレス化に取り組む活動を知ること、一つのストローのごみがどうなるのか考え、身近な環境への関心を高め、環境を守るために自分の生活を見つめ直すとともに、家族や身近な人たちと一緒に課題解決に取り組んでいこうとする意欲や実践的態度を養いたい。</p> <p>【児童/生徒観】</p> <p>本学年の児童は、1学期に社会「ごみはどこへ」の学習で、北九州市のごみ処理の仕方やリサイクルについて学習してきた。家庭ごみがどこへ行くのか、リサイクルに回した資源などはどのように変わっていくのかは理解しているものの、正しく処理されなかったごみがどこへ行って</p>				

<p>どうなるのかということまで、考えている児童が少ない。本単元では、北九州市がストローレス化に取り組む理由を考えていくことで、エコタウン見学を通して、日本のプラスチック事情をより詳しく学び、身近な問題であることに気づかせたい。また、世界の問題でもあることを知り、プラスチックごみの問題を身近にとらえることができるきっかけを作りたいと考えている。</p> <p>【教材観】</p> <p>本単元では、北九州市がストローレス化に取り組む理由を考えながら、本単元のめあてを設定していく。次に、プラスチックごみは、世界の問題でもあること、私たちの生活にも深く関わっていることを気づかせて、ジブンゴトにしていく。最後に、プラスチックごみの問題を解決していくためには、自分が行動していくことが必要であると価値づけていく。</p> <p>【指導観】</p> <p>プラスチックごみの問題については、誰もが身近に関わってくる問題だが、日本では、資源化センターで資源を再利用して他のものに作り替える施設があり、きちんと分別すれば、再利用できるものに生まれ変わる。しかし、海でバーベキューをした後のごみそのままに捨ててあったり、道ばたにお菓子のごみが捨ててあったりしている。日本だけではなく、世界に目を向けてみるとごみであふれていて、日本のような施設がない国もある。今、起きているプラスチックごみの問題について知り、今後起こりえる事態について考えさせる。その中で、自分にできることや、家族と一緒にできることを考え、行動に移すことができるようにつなげていきたい。</p>			
7. 単元計画（全7時間）			
時	ねらい	学習活動	資料など ※：JICA リソース活用はここに記載
1 本時	・北九州市が給食のストローレス化に取り組む理由を知ることで、私たちの生活にも大きく影響することに気づくことができる。	・北九州市が給食のストローレス化に取り組む理由を考える。 ・一枚の写真から未来を予想する。 ・もっと調べたいことから学習課題をつくる。	・新聞記事 ・資料①②③ ・ワークシート
2	・日本のプラスチック事情を知ること、身近な問題であることに気づくことができる。	・社会科見学（エコタウン）	
3	・世界のプラスチックごみの問題について詳しく知り、ジブンゴトとして捉えることができる。	・JICAの方に世界のごみ処理施設やプラスチックごみの問題について実際に現地で行っている現状の話聞く。 ・日本と世界の問題を比べる。	・JICA リモート
4	・プラスチックごみを減らすために自分にできること、家族と一緒にできることを考える。	・プラスチックごみを減らすために自分にできること、家族と一緒にできることを考え、ワークシートにまとめる。	・ワークシート
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一週間程度、家族と一緒にプラスチックごみを減らすための取り組みをしたり、現在、取り組んでいる内容を家族と一緒に確認したり、プラスチックごみを減らす方法が他にないのか考える。</p> </div>			
5～ 7	・友達と協力し、新聞にまとめる。	・家族と一緒に取り組んだ内容の成果を友達と伝え合い、班で協力して新聞にまとめる。	・ICTの活用（Teams）

8	<ul style="list-style-type: none"> ・他の班の発表を聞いて、自分でできることや家族と一緒にできることが他にもあることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会を行い、本単元の振り返りをワークシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用 (Teams) ・ワークシート
<p>8. 本時の展開 (概略)</p> <p>本時のねらい：身近なプラスチック削減の取り組みについて知り、その理由を考えることを通して、プラスチックごみは世界の問題であることや私たちの生活にも大きく影響することに気づき、問題解決に向けて意欲を高める。</p>			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
<p>導入 (5分)</p>	<p>1 北九州市のストローレス化に触れ、本時のめあてを設定する。</p> <p>「この記事は、北九州市が来年、給食の牛乳のストローをなくすという記事です。」</p> <p>「ストローには、何が使われていますか。」</p> <p>「実際に触って確かめてみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック <p>「なぜ、プラスチックで作られているストローをなくそうとしているのでしょうか。」</p> <p>「予想しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストローを作るためのお金がかかるから。 ・環境に悪いから。 ・ごみが増えるから。 	<p>給食の牛乳、プラ製ストロー廃止へ 来年度から北九州市</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・北九州市の給食のストローレス化の取り組みに触れ、プラスチックごみの問題が身近に感じることができるようになる。 ・新聞記事の見出しと写真を見せる。 	<p>資料①新聞記事</p> <p>北九州市教育委員会は来年度から、市立学校の給食で出されている牛乳を飲むためのプラスチック製ストローを廃止する。15日に発表した。年間あたり約7トン(ストロー約1500万本)のプラスチックごみ削減になり、児童・生徒の環境問題への意識向上にもつなげたいという。</p> <p>市内では、牛乳の容器が瓶から紙パックに変わった1974年以降、プラスチック製ストローが使われている。紙製ストローへの変更も検討したが、コストが割高になるため断念。日本製紙が昨年開発した、開封しやすくストローがなくても直接飲む牛乳パックを利用することにした。</p>
<p>展開 (30分)</p>	<p>めあて プラスチックについて考え、学習課題をつくろう。</p> <p>2 身の回りに使われているプラスチックについて調べる。</p> <p>「身の回りに使われているプラスチックはどんなものがありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き出し、定規、シャンプーボトル、ペットボトル <p>「身の回りにはたくさんプラスチックが使われていますが、これらを減らしていこうという取り組みは北九州市のストロー以外に何かありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジ袋、詰め替えボトル 		<p>ワークシート</p>

<p>まとめ (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニのストロー 「これは、プラスチックが川に流れついている写真です。」 「この写真から未来を想像しましょう。」 ・川や海が汚くなる。 ・海で泳げなくなりそう。 ・海の生き物が死んでしまうかも。 <p>「これは、世界の海に流れ込んでいるプラスチックごみの量です。」</p> <p>「実は、日本は人口一人当たりのプラスチック容器包装が捨てられている量が世界で2位。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界で1年間で800トンのプラスチックごみがでていくなんてすごい。 ・日本が世界2位はなんて、やばい。 ・リサイクルもしているのに。 <p>3 本時の学習を振り返り、学習課題をつくる。</p> <p>「プラスチックごみをこのままにしておくと、自分たちの未来が大変なことになってしまいます。」</p> <p>「この単元で、調べていきたいことは何ですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本のプラスチックごみは一年間で、どのくらいでるのか調べたい。 ・世界のプラスチック問題について、詳しく知りたい。 ・プラスチックごみを減らすために自分にできることを考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一枚の写真を観て、自分たちの未来に危機感をもたせることができるようにする。 ・ごみ問題が私たちの生活にもつながっていることまでつなげる。 <p>・実際に容器包装を見せて、イメージしやすくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のごみ問題について、もっと、学習したいことをあげさせて、学習課題をつくる。 <p>・この単元では、社会科見学でエコタウンへ行くことや、JICAの方から、リモートでつながることを知らせ、次回の意欲をもたせることができるようにする。</p>	<p>資料②</p> <p>JICA 映像教材 世界につながる教室～授業で使える映像教材～(水と世界・ルワンダ・国際協力) 5. 海をわたるプラスチックごみ</p>  <p>・川や海に流れ出したごみは最終的にどうなるのか。</p> <p>資料③</p> <p>世界のプラスチックごみの現状</p> 
<p>学習課題</p> <p>日本や世界のプラスチックごみ問題について調べ、プラスチックごみを減らすために、自分にできることを考えよう。</p>			

<p>9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</p> <p>プラスチックごみが世界の問題であることや私たちの生活にも大きく影響することを理解し、問題解決に向けての意欲を高めている。（ワークシート）</p>
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科で学習した新聞作りを生かして、単元のまとめは班で新聞を作りまとめて、発表する。 ・新型コロナウイルス感染症予防対策として、新聞作りは各自のタブレットを使って Teams の共有で進めていく。 ・社会科見学でエコタウン見学を通して、日本のプラスチックごみの現状を詳しく教えてもらい、身近な問題であること実感できるようにする。 ・JICA の方に世界のごみの問題から、プラスチックごみについて話をしていただき、世界の問題が自分事としてとらえられるように進めていく。（リモート）
<p>11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の先生方に、授業実践を参観してもらい、授業に関するアドバイスをいただく。 ・同学年の先生にも同じ授業実践をしていただいて、国際理解教育を広げていく。 ・学習でまとめた新聞やSDGs に関する掲示物や資料を廊下に掲示したり、図書室に置いたりして教師や児童の目に留まるようにする。

【自己評価】

12. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育の単元計画を考える際に、どのような導入の仕方をすれば、子ども達がスムーズに世界のことにつなげることができるのかを考えることが大変だった。 ・途中に、エコタウンの見学ができるようになったため、単元計画を練り直したり、学習内容を少し変更したりした。 ・リモートを通して、世界のごみ問題について4年生の子ども達が理解できるように伝えるためには、どの言葉を選び、どこまでを伝えるのかをリモートで何度も打ち合わせを重ねた。
13. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の導入のところで、北九州市の牛乳のストローが廃止になる新聞記事を取り上げて子ども達に紹介したので、実際に触ったみるなどすると、プラスチックがどういったものかがわかり、スムーズに授業展開にできたと思う。 ・動画ではなく、一枚の写真から子ども達が考えていく授業展開をすることができれば、対話的な学習展開が生まれたと思う。 ・一時で日本のプラスチックごみから世界のプラスチックごみまでを行ったので、日本のこと世界のことに分けて行くと、子ども達の考える時間も多くとれたと思う。
14. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に世界のごみ処理に携わっていた方とリモートでつながり、世界のごみ問題の話や経験して話を聞くことができたことやプラスチックごみを減らす取組を家族と一緒にやったこと、新聞としてまとめたものを学級通信で配信したことや廊下に掲示したことで、世界のことに関心をもつ児童が増えた。 ・単元が終わったあともSDGs のことについて、自主学習で調べていく姿が見られた。 ・学年全体で授業実践を行ったことで、他の先生方にも国際理解教育を広げることができた。

16. 授業者による 自由記述	<p>今回、国際理解教育の研修に参加させていただいた中で、教科はないが、世界に目を向けさせ、小学生の子ども達に「ジブンゴト」として考えさせるために、より子どもの実態に合わせて全て自分で考えなければならないことにとってもハードルが高かった。しかし、JICA 職員の方々やアドバイザーの方々、全国の先生方とつながれたことで、広い視野から国際理解教育について深く考えることができた。</p> <p>今回、リモートという形で授業を参観していただいたり、JICA 九州の職員や JICA 九州の OB の方には、協力隊の体験談をお話していただいたことで、私自身にとっても子ども達にとっても、とても良い経験になった。</p> <p>また、世界のことを身近に感じ、大人でも「ジブンゴト」として、振り返ることができた。</p>
--------------------	---

参考資料：

- ・朝日新聞「給食の牛乳、プラ製ストロー廃止へ 来年度から北九州市」2021年7月15日
- ・JICA 映像教材 世界につながる教室～授業で使える映像教材～（水と世界・ルワンダ・国際協力）5. 海をわたるプラスチックごみ
- ・NHK「1からわかる！プラスチックごみ問題（1）」

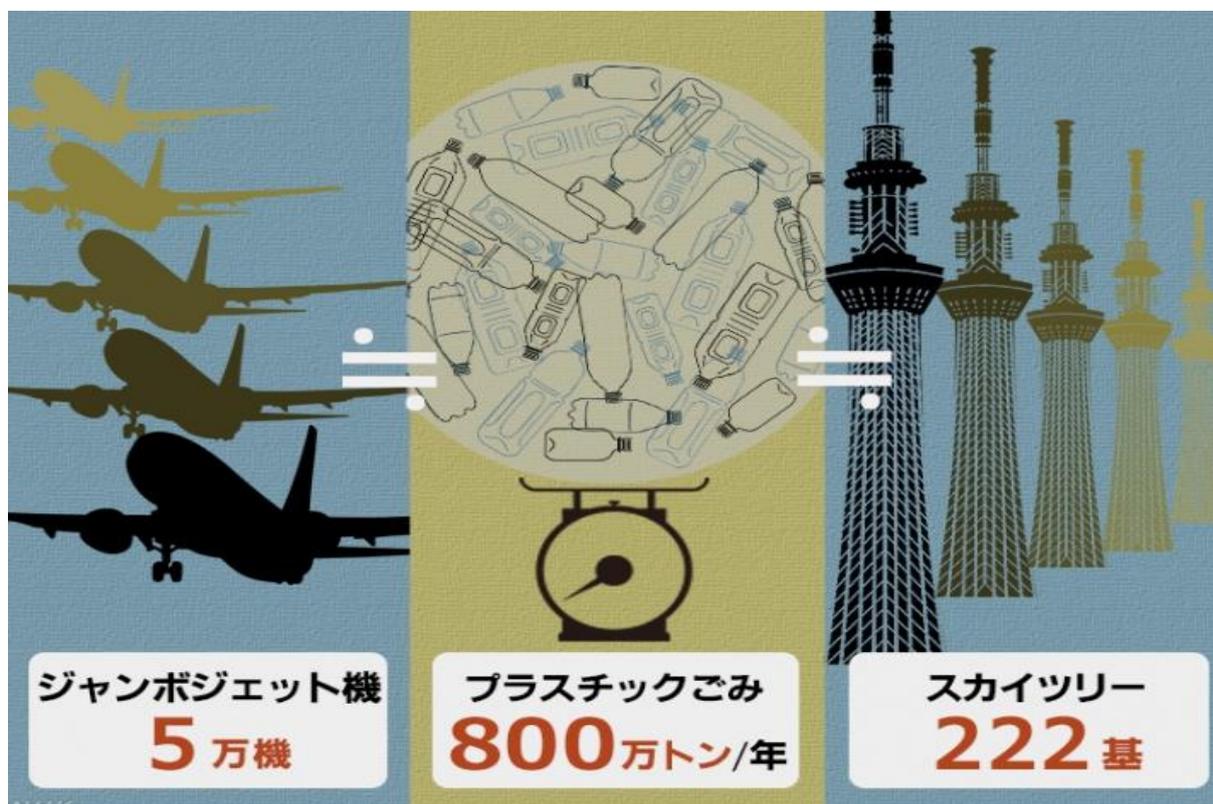
給食の牛乳、プラ製ストロー廃止へ 来年度から北九州市



新たに提供される牛乳パックのサンプル（手前）。現在提供されている牛乳パック（奥）より開封しやすい
=2021年7月15日午前11時20分、北九州市小倉北区、城島町撮影

北九州市教育委員会は来年度から、市立学校の給食で出されている牛乳を飲むためのプラスチック製ストローを廃止する。15日に発表した。年間あたり約7トン（ストロー約1500万本）のプラスチックごみ削減になり、児童・生徒の環境問題への意識向上にもつなげたいという。

市内では、牛乳の容器が瓶から紙パックに変わった1974年以降、プラスチック製ストローが使われている。紙製ストローへの変更も検討したが、コストが割高になるため断念。日本製紙が昨年開発した、開封しやすくストローがなくても直接飲める牛乳パックを利用することにした。



総合的な学習の時間①

月 日 ()

4年 組 番 名前 ()

単元名

--

めあて

--

予想

--

身の回りのプラスチック

学校	家庭

今日の学習をふり返って、

もっと〇〇について調べたい！！〇〇が気になる！！ことなどを書こう。

<日本>
<世界>

学習課題

--